
DIARY POEM

黒狐由意

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

D I A R Y P O E M

【ノーノード】

N 7 2 9 9 D

【作者名】

黒狐由意

【あらすじ】

日記の中にはソソンと書かれていたものをアップしてみました。心の声、四篇です。

2001 12/6

この世界はぎすぎすして
今にも息が絶えそうだ
どうして こうなつたのか
誰が 知るだろう

人々の望みは完全に置き去りにされ
涙を流しながら胸に大きな傷を抱える
お互いに 睨み合いながら
生きる事を競争にし

お互いを 跡倒しながら

たつた今だけでも 自分一人が
生き抜ければいいと感じる
悲しいけれど これが現実
助け合えないまま

同じ場所から生まれたのに

2001/12/23

身体の中に脆い心がひび割れてある
誰にも触らせないと
怯えながら育つた
何時の間にか
本当の事は何も言えない
自分の愛さえ訴えられない
鍵を掛けた心

鋭く尖つた爪

傷つけられて来たから

鋼鉄のボディを纏つた

誰にも触れられない

ガラス細工の心臓

瞳の涙は碎けてばらばら

抱き合つたらきつと抱き殺してしまつから
何も愛さない

2008 1/14

明日をも知れぬ命

明日にはもういない相手かもしれないのに
明日も共にあることを疑いもしないで

醜く言い争えるあなたがたがうらやましい
永久の孤独とは

失う悲しさを知りすぎているということ

人間のわたしは平気なのに

わたしの魂は深い深い悲しみをわたしに叩きつける

当惑する人間達の中

わたしは戸惑いながら涙を止める事も出来ない
なぜならば魂は愛した人たちが失われた事を知っているから
一瞬でもぎとられた愛しい者達の記憶を覚えているから

2008 2/8

天国は目に見えない
でも耳で聞くことは出来る

鼻で嗅ぐ事も出来る

身体で感じる事も出来る

第六感で感じ取る事も出来る

天国は目に見えない

視覚以外の感覚でしかそれは捉えられない

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7299d/>

DIARY POEM

2010年10月22日00時35分発行